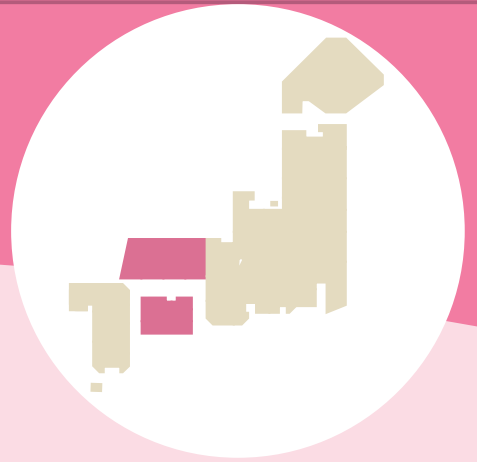


# 中国・四国



p.54 鳥取県

山田 丞二さん  
ダンススポーツ



p.55 島根県

前田 克美さん  
ソフトバレーボール



p.56 島根県

峰谷 茂さん  
将棋



p.57 山口県

藤 清隆さん  
サッカー



p.58 山口県

吉田 真純さん  
水泳



p.59 徳島県

松田 政直さん  
ソフトボール



p.60 徳島県

江淵 豊幸さん  
グラウンド・ゴルフ



p.61 香川県

大西 小波さん  
バウンドテニス



p.62 香川県

名瀬 文雄さん  
ソフトバレーボール



p.63 高知県

弘瀬 佳代さん  
水泳



p.64 高知県

明神 良房さん  
マラソン



p.65 広島市

柿本 雅之さん  
将棋





## ダンススポーツ

鳥取県ダンススポーツチーム  
(監督兼選手)

やま だ じょう じ  
山田 丞二さん

66歳

●参加歴：3回目

## 清流に輝け 全国に広げようダンスの長寿の輪

とっとり大会「咲かせよう 砂丘に長寿と笑みの花」からのバトンを受けて、ぎふ大会「清流に輝け ひろがれ 長寿の輪」に参加しました。

大会前から「清流」という言葉が気に入り、長野県から流れる木曾川、岐阜県西部を流れる掛斐川、そして大日ヶ岳を源流とし伊勢湾へ注ぐ長良川に思いを馳せました。ダンススポーツ大会はその長良川の先にある高山市で開催されました。

選手全員で、鳥取から大阪・名古屋を経由し、長良川沿いをレンタカーで高山市へ向かいました。途中、岐阜市や関市を過ぎる頃には気温も下がり、日本アルプスの中心に登っていくような感覚を覚えました。高山市は歴史と伝統の町で、散策スポットとなっている古い町並みでは多くの外国人観光客を見かけ、国際的な観光都市であることを実感しました。

開始式では副市長のあいさつとともに、全国各地から集まったダンススポーツの選手が飛騨高山

ビッグアリーナに集合しました。会場にはボランティアの方々や、伝統工芸・飛騨牛・高山ラーメンののぼりが並び、市民の温かいおもてなしが感じられました。キラキラした水面に住む妖精キャラクターや、世代を超えた絆を象徴するシンボルマークが印象的でした。

競技は宮本侑信さんの華やかなデモンストレーションから始まりました。個人戦・チーム戦ともに熱気に包まれ、ワルツ・タンゴ・ルンバ・チャチャチャの各種目で、日頃の練習の成果を存分に楽しく発揮できました。また、鳥取県社会福祉協議会の方々が2階席から大きな声援を送ってくださり、力強い応援に勇気をもらいました。会場は清潔で運営もスムーズ、安心して、楽しく競技に集中できました。

シニアの交流・健康・長寿をテーマとしたこの大会は、日本を元気にする素晴らしいイベントでした。

帰りには高山ラーメンをお土産に購入しました。細めのちぢれ麺に、鰹や魚介の香る和風だしが絶妙で、とても美味しかったです。

ねんりんピックの「健康の輪」も、この高山ラーメンのように細く長く、そして清流のように清らかに全国へ広がっていくことを願っています。

最後に岐阜県民の皆さん、ボランティア、そしてご協賛いただいた皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。とても楽しい大会でした。



笑顔があふれる鳥取県ダンススポーツチーム。  
(右から2番目)



## ソフトバレーボール

まえ だ かつ み  
前田 克美さん

64歳

● 参加歴：2回目

OKI愛LAND  
(選手)

## 憧れのねんりんピックで広がった交流の輪

33歳からソフトバレーボールを始め、50代後半になった頃、先輩たちから「ねんりんピックは楽しいよ。特に総合開会式は最高だよ」と聞き、一度は参加してみたいと思うようになりました。

2021年のぎふ大会は予選がなく、県推薦で参加できることになり、島根県選手団のユニフォームの採寸までしましたが、新型コロナウイルスの影響で開催中止となりました。チームで岐阜の観光ガイドブックまで購入し、みんなで楽しみにしていたので、とても残念でした。

翌年の神奈川・横浜・川崎・相模原大会は開催され、ようやく念願のねんりんピックに参加できましたが、まだコロナの影響が強く、総合開会式は一部の競技だけが参加できる形でした。

そうしているうちに、「また岐阜でねんりんピックがあるよ」と聞き、次こそは絶対に行きたいという想いが強くなっていきました。

島根県予選は、行きたい気持ちが強い分、緊張しました。全試合がフルセットという過酷な戦いになりましたが、なんとか優勝し、ぎふ大会に参加できることになりました。コロナも5類感染症へ移行し、選手団全員が参加できる総合開会式は本当に素晴らしいものでした。天気も最後までなんとかもち、自由参加の郡上踊りでは、地元ボランティアの学生さんと一体感を味わい、最高の時間になりました。



決まった！勝った！バンザイ！（左端）

試合のほうは、初日に栃木・富山・島根の3チームで総当たりの予選リーグを行いました。島根県予選と同様にすべてフルセットの接戦でしたが、なんとか勝ち切り、1位グループへ進むことができました。予選で戦った栃木のタカクラブさんとは同じホテルに宿泊していたこともあり、とても仲良くなりました。LINEも交換し、「また会いましょう」と交流の輪が広がりました。

来年の埼玉大会ではソフトバレーボール競技は開催されないようなので、別の競技にチャレンジして総合開会式に参加するのもいいかな、と考えています（笑）。

最後に、大会を支えてくださったボランティアの皆さん、そして応援に来てくださった島根県社会福祉協議会の皆さんに、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



表彰式の後、銅メダルを首にかけてチームメイトと。（左端）



## 将棋

出雲のイナズマ  
(選手)

みね たに しげる  
峰谷 茂さん

70歳

●参加歴：3回目

## さらなる将棋の普及を目指したい

私は10年前に公益社団法人日本将棋連盟公認の将棋指導員資格を取得し、自宅近くの公民館で月2回、ボランティアによる将棋教室を開催しています。教室には、今回のねりんピック代表の相方をはじめ、同じく将棋を愛する数名の方に協力いただき、指導のお手伝いをしてもらっています。

教室を開くきっかけとなったのは、出雲市出身の女流棋士・福間香奈女流六冠が10代の頃から努力を重ねる姿を見て、「地元の将棋ファンを増やし、盛り上げたい」と思ったからです。私が福間香奈さんのファンになってから20年近くになりますが、現在もメール友だちの一人としてお付き合いいただいています。

今回のねりんピックの将棋チーム名「出雲のイナズマ」は、福間香奈さんの代名詞にちなんで名づけました。また、チーム紹介コメント

では、「島根県の誇る福間香奈女流棋士の座右の銘は『好きな道なら楽しく歩け』です。島根県チームも、好きな将棋を楽しく対局していきます」とメッセージを添えました。

大会初日の団体戦は、残念ながら予選敗退となりましたが、2日目の個人戦ではすべての対局を楽しく指すことができ、4戦全勝の優勝という望外の喜びを得ることができました。

現在の将棋教室には、小・中・高校生が30人前後、70代までの大人の方が20人前後と、多くの参加者が集まり盛況です。これは福間香奈さんや藤井聡太六冠の活躍による影響も大きいと感じています。また、教室では二つの普及目標を掲げています。

一つ目は「子どもたちへの普及」です。子どもたちには棋力向上だけでなく、対局マナーの指導にも力を入れています。将棋を通じて集中力や忍耐力を養い、一つのことを続ける大切さを学んでほしいと願っています。

二つ目は「高齢者の方への普及」です。ねりんピックの島根県の予選大会では、出場最年長(90歳)の方が「頭と手先を使う将棋は脳の体操になり、ボケ防止にも良い。仲間との対局や大会に出場することは楽しいので、できる限り長く続けたい」と話しておられました。まさにその通りだと思います。高齢者の方にも気軽に参加いただける環境づくりに努め、島根県予選の参加者増にもつなげたいと考えています。

これからも将棋教室の継続を社会貢献の一つとして、生きがいを持って取り組んでいきたいと思っています。



団体戦でともに戦った出雲のイナズマチーム。(左端)



中国・四国  
山口県

2025 GIFU  
NENRINPIC

## サッカー

ブラック・ダイヤモンドズ 60  
(監督)

ふじ きよ たか  
藤 清隆さん  
69歳  
●参加歴：5回目

## 生涯現役プレイヤーを目指して

初めてねんりんピックに参加したのは60歳の時、やまぐち大会でした。今回のぎふ大会で、5回目の出場となります。

山口県では、シニアO-60サッカー大会のリーグ戦で優勝したチームがねんりんピックに出場していました。しかし、ねんりんピックの趣旨を考えると、一部の人が参加するのではなく、全員に権利があると考えて、私の提案で数年前から輪番制を導入し、現在は6チームで運用中です。今大会はブラック・ダイヤモンドズ60の選手を主に、他のチームからの有志を加えて構成されたチームが出場しました。

山口県選手団100名は山口から新幹線で名古屋に到着後、バスでワシントンR&Bホテル名古屋栄東へ。道中で名古屋城の天守が光り輝いて見え、明日の開会式が楽しみになりました。その夜はパーティールームで結団式・懇親会が行われました。

翌日は総合開会式会場の長良川競技場で式典が行われ、選手団と旗手は一斉行進。私は団旗を持つ大役を任せられ、無事に終えてホッとしました。その後、アトラクションなどが行わ

れ、小雨が降るなか、選手団は各交流大会に向けてバスで宿泊先に向かい、監督は代表者会議場のある飛騨市文化交流センターへ。特別表彰式、開催要領、競技運営上の説明があり、参加人数約1100人に及ぶサッカー競技が明日から始まることを実感しました。

その日は岐阜北部の高山市内のホテルに宿泊し、夕食は近くの串の三百両という居酒屋で「暴飲暴食」をして、翌日の試合に向けて夜遅くまで語り合いました。

試合当日は小雨も上がり、絶好のサッカー日和。ホテル周辺を友人と散歩したあと、朝食を堪能して試合会場に向かいました。初日は2敗という結果でしたが、フィールドの外ではチームの誰もが和気あいあいと場を盛り上げる人たちがばかりでうれしく、明日への活力となって、夜は前日と同じ居酒屋に向かいました。

2日目は惜しくも引き分けでしたが、ボランティアや高校生からもらったトマトやりんごジュースを美味しくいただきました。試合の結果は2敗1分けで、ブロック優勝にはほど遠い成績となりましたが、次回開催地の埼玉県でのリベンジを祈りたいと思います。

これまで多くのことを続けてこられたのも、家族の協力があったからこそで、とても感謝しています。これからも体力が続く限り、頑張っていきたいと思います。



山口県選手団を代表し、旗手として参加。



最後まで走り抜いた選手たちに拍手！  
(後列右から6番目)

## 水 泳

よしだ ますみ  
吉田 眞純さん

70歳

●参加歴：3回目

バタフライ 50m、25m  
(監督兼選手)

## どん底から復活し、金メダルを獲得

ぎふ大会は、私にとっては3回目のねんりんピックとなりました。

全国各地から集った多くの選手が日々の練習成果を発揮するとともに、競技仲間や地元の方々、他チームの選手との交流を通じて、たくさんの思い出が心に刻まれたと思います。

今回は、監督兼選手での大会参加となりました。監督としての大役は多岐にわたり多忙でしたが、充実した時間であり、良い経験となりました。特に山口県社会福祉協議会の女性職員、立石さんには最初から最後まで連絡、相談に乗っていただき大変助かりました。おかげさまでチームを統括し、指導、管理することができました。本当にありがとうございました。

私の水泳歴は50年で、長年にわたり水泳を続けて健康維持や体力向上ができ、健康面には自信がありました。しかし、昨年7月にプールで泳いでいたところ、急に胸の痛みがあり、圧迫感を感じました。家に帰って、安静時にも胸

の痛みがあり「おかしい」と感じてすぐに病院に行きました。診察してもらうと、心臓の冠動脈が動脈硬化により狭くなり、血液が流れにくくなっている狭心症と診断され、その日に入院、治療を行いました。それから年明けまで運動はドクターストップで治療に専念し、病状の安定を目指しました。

年明けから病状が安定し、泳ぎ始めましたが、体力が落ちて泳げなくなっていたので、どん底状態でした。元の体力に戻すために水泳を本格的にやり、ねんりんピック出場を目指そうと決めました。今回のねんりんピック出場は、あきらめずに水泳を続けてきたことへのご褒美だと思っています。

さて、肝心の競技結果は、努力の甲斐あって25m、50mバタフライで優勝しました。

やはりメダル獲得はうれしいものですね。他のメンバーも銀、銅メダルを獲得して喜んでいました。

最後に、今大会の準備から実施、運営に関わった関係者の皆様に感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。



大健闘した山口県チームの4人。(右端)



25m、50mバタフライで念願の優勝。



中国・四国  
徳島県

2025 GIFU  
NENRINPIC

## ソフトボール

まつだ まさなお  
松田 政直さん

79歳

●参加歴：1回目

板野体協シニア  
(監督兼選手)

## ねんりんピック初参加で得た体験

私たち板野体協シニアは、現在15名で活動をしています。球史は古く、私も監督となって約10年になりますが、ねんりんピックは初出場です。

徳島県はソフトボールに関してはレベルが高く、数年前にねんりんピックで優勝した鳴門クラブ、また昨年のとっとり大会に参加した藍住GMなどがあります。しかし、県予選会では両チームと対戦せず、私たちが優勝することができたのです。ぎふ大会への参加が決まってからは、大会に向けて選手の皆さんも練習に熱が入りました。

いよいよ、ぎふ大会に向けて、地元の板野町を朝8時に出発しました。

私は、監督としてその日の監督者会議に出席したところ、4名の高齢者の方が表彰されました。私も来年は80歳、まだ頑張れると励みになりました。会議が終わり、チームの皆さんと試合会場を見学しました。関係者の皆さんが私たちのために雨降りの中で準備をしてくれ

ていました。そのおかげで、次の日は試合ができました。本当にありがとうございました。

私は、「まず1勝」を目標にして、選手の皆さんと誓い合いました。その結果、第1回戦では、運良く横浜市の横浜神泉クラブさんに勝つことができました。そして、次の第2回戦では愛知県の稲沢ゴールドさんに負けましたが、目標の1勝を達成したことは、チームにとって今後の励みになると思います。

誌面をお借りして御礼を申し上げたいのですが、選手が試合中に足を負傷した際に、看護係の皆さんに温かい手当てを受け、次の日はうまく歩行することができました。本当にありがとうございました。

岐阜での楽しい思い出づくりから、大会の成功、素晴らしいご接待まで、ご尽力いただきました大会関係者、運営スタッフの皆さん、ボランティアの皆さん、ありがとうございました。

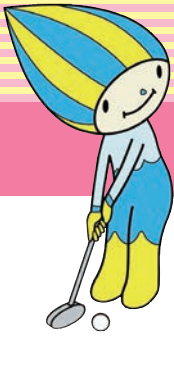
また、この大会に出場したいと思っています。関係者の皆さん、よろしくお願ひします。



試合前にキャッチボールで肩慣らし。(左)



目標だった1勝を達成し、笑顔で記念撮影。(前列左から3番目)



## グラウンド・ゴルフ

え ぶち とよ ゆき  
江 淵 豊 幸 さん

76 歳

● 参加歴：2 回目

徳島県  
(選手代表)

## 県外選手との親交を深めた交流大会

徳島県からグラウンド・ゴルフ交流大会に、男子3名、女子3名、合計6名の選手で参加しました。その中には、前々回のえひめ大会の参加選手が3名含まれています。

10月17日、午前10時30分から、徳島県庁11階の講堂で、ぎふ大会の徳島県選手団結団式が行われ、徳島県知事より県旗が授与されて激励の言葉を受けました。県庁食堂での昼食後、選手団は12時過ぎに貸し切りバスで岐阜県へ出発しました。

その日の夜は、徳島県選手団の交流会が開催され、各競技参加チームの自己紹介があり、各チームから上位入賞を目指す決意表明が行われました。

総合開会式当日は曇り空の中で式典が行われました。交流アトラクション前半は、岐阜県内各地の競技開催市町村の映像スライドを交えての紹介、また、県内高校生たちによる選手に向

けた応援がありました。後半は地元の郡上踊り、フォークダンスなどで盛り上がり、全国の選手の皆さんとの交流を楽しみました。

グラウンド・ゴルフ交流大会の競技会場は晴天に恵まれ、天然芝コースと人工芝コースの2面で競技が行われました。どのコースも難所ばかりで、なかなか難しいコースでした。特に天然芝コースは、徳島で練習を行ったことがなく、参加者6名全員が初めてなもので大変苦労しました。

大会期間中は、ゲームの間に県外選手と意見交換を行うなど交流を深め、大変楽しい2日間のグラウンド・ゴルフ大会でした。

帰りは、新幹線・高速バスを乗り継いで、無事に徳島に帰って来ました。

お世話してくださったとくしま“あい”ランド推進協議会の皆様をはじめ、大会関係者の皆様、本当にありがとうございました。



総合開会式の終了後、選手全員で健闘を誓い合う。(左から2番目)



全力でプレイした競技会場にて。(後列左端)



## バウンドテニス

ウドンデス讃岐  
(監督兼選手)

おおにし さなみ  
大西 小波さん

68歳

●参加歴：3回目

## 思いを一つに、感動の2連覇を達成！

私たちなんと、2連覇しちゃいました！

メンバー6名、思ってもいなかった2連覇にビックリするやら喜ぶやら、感激の涙までこぼれるほどでした。

ぎふ大会の参加メンバーに選ばれた際に、香川県バウンドテニス協会の方々から「2連覇を目指して頑張ってきてください」と応援されました。でも、そんなの無理です……、昨年の優勝は運が良かっただけですと、本当にそう思っていました。試合は楽しんで、美味しいものを食べて、岐阜県の観光を楽しもうと考えていました。

小雨の降るなか行われた総合開会式。実際に参加することで、ねんりんピックに来ているんだと実感しました。地元の皆さんの心遣いや、おもてなしにも感激しました。

競技1日目の予選。強者ぞろいの厳しい試合ばかりの中で、私たちが心がけたのは、一球一球、気持ちを切らさずに精一杯ボールを追うこと。チームの仲間たちも、それぞれの姿に自分を重ね、全員でボールを追いかけてきました。試合中は全員で声をかけ合い、心一つにして戦いました。何とか予選を1位で突破し、明日も頑張ろうと声をかけ合いました。

2日目の決勝トーナメントも、厳しい試合になるのはわかっていました。どのチームも予選を1位で勝ち上がってきたチームばかりです。苦戦しながらも、私たちは決勝戦まで勝ち上がることができました。

決勝戦も最後まで一進一退の展開でした。試合をする選手は全力でプレイし、他のメンバーは応援の声に力を込めました。声援が少しでも力になり、選手に届くようにと気持ちを込めました。

この6名でぎふ大会に参加できて良かった！そしてありがとう！



チームカードを持って記念撮影。(右から3番目)



2連覇を達成し、歓喜の表彰式を終えて。(前列中央)



## ソフトバレーボール

川島体協 ALPHA  
(監督兼選手)な ぶち ふみ お  
名 淵 文 雄 さん

65 歳

● 参加歴：2 回目

## まだまだこれから！ 人生は長い

ぎふ大会には、一昨年のえひめ大会に続き 2 年ぶり 2 度目、連覇をかけての出場でした。前大会から 2 つの年を重ね、チームの平均年齢は 66 歳。少しの不安を感じながらも、それ以上に大きな期待を抱きながらの挑戦でした。

ソフトバレーボール競技は男女各 2 名の 4 名、コートのはさはバドミントンダブルスと同じで、ネットの高さは 2 m です。60 代にとっては少し高めではありますが、さすがに全国大会、長身で身体能力が高く経験豊かな選手がたくさんおられ、どこのチームも個性的で魅力的、強豪チームばかりです。そんな皆さんとの対戦でしたが、ドタバタしながらも初日の予選は運も味方につけて 2 連勝、ブロック 1 位通過。幸先の良いスタートが切れました。とりあえず、前回は優勝ただけに全員で安堵の一夜を過ごすことができました。

2 日目は、いよいよ優勝を目指しての戦いです。ここまで来るとプレッシャーとの戦いも相当なものです。厳しい場面が多くありましたが、チーム一丸となって必死で頑張り、なんとか 1 回戦をクリア、決勝戦に駒を進められました。しかし、残念ながら今回はここまで。力尽きて惜しくも第 2 位、銀メダルという結果になりました。

少し悔しさはありますが、楽しみは次の機会に大切にとっておくことにしましょう。それよりも、対戦を通して新たな戦術や驚かされる発想など、数多くのものを体感することができて大きな刺激を受けました。これらの体験は私たちにとって素晴らしいエネルギーとなり、新たな活力と希望、勇気を与えてくれるはずです。「まだまだ、これから！ 人生は長い」という気

持ちにさせてくれるわけですね。

これからもスポーツを通し、心身ともに健康でいられることに感謝し、さらなる期待を胸に日々新しいものを探しながら、みんなで仲良くポジティブに、アグレッシブに頑張っていけたらと思っています。

大会では、懐かしい他県の選手の方々との再会を楽しんだり、新しい出会いが始まったりもします。人生において本当に貴重な心の財産となります。大変ありがたいことですよね。

最後になりましたが、このような大会を開催していただき、関係者の皆様のご尽力に心より感謝を申し上げます。あわせて、チームの皆様、全国のソフトバレーボール愛好者の皆様にも、深く御礼を申し上げます。では、またいつの日か、どこかで元気にお会いしましょう。



表彰式後にチーム全員で記念写真。(後列左端)

## 水 泳

ひろ せ か よ  
弘瀬 佳代さん

75歳

● 参加歴：5回目

平泳ぎ 50 m、バタフライ 25 m、  
混合メドレーリレー  
(選手代表)

## 金メダルまで15年 —師匠と仲間に感謝を—

ネパールのランタン谷で、標高4000メートルに咲く幻の花・ブルーポピーを見に行く—。そんな夢を叶えるため、53歳の時に心肺機能を鍛えようと初めてプールに足を運びました。そこで偶然、水泳を教えていたのが都築先生でした。私は全く泳げなかったので、「泳げんけど、入ってかまんろうか？」と恐る恐る声をかけたのが、すべての始まりでした。

面倒見が良く、しかし妥協を許さない先生の指導のもと、私は一から泳ぎを学びました。健康のために始めた小さな挑戦が、15年後のねんりんピックで金メダルという大きな喜びをもたらすとは、その時は想像もしていませんでした。

水泳を始めて6年が経ち、少し自信がついた頃、先生にすすめられてねんりんピックへの挑戦を決意しました。しかし結果は入賞にも届かず、悔しさだけが残りました。それでも、いつか必ず金メダルを取ると心に誓いました。

ところが、突然の悲報が私たちを襲います。7年前、都築先生が水泳中に急逝されたのです。その場にいた私は、現実を受け止めきれず、悲しみと喪失感に押しつぶされそうでした。しかし残された仲間と話し合い、「しばてん」という水泳サークルを結成。週2回の練習と自主練を重ね、

私たちは先生の教えを胸に泳ぎ続けました。

私は水を掴む「キャッチ」が苦手なため、ならば「キックで勝負」と心に決めました。もともと山登りが好きで、近くの山を愛犬とともに年間300日以上登っていました。自然を楽しむその時間が、知らず知らずのうちに脚力を鍛えてくれていたのです。

そして迎えた今年のねんりんピック。バスの休憩所で偶然出会った鳥取の選手と意気投合し、鳴子とハンカチを交換する心温まる交流がありました。表彰式で私の名前が呼ばれ、表彰台に上がると、客席のどこからかカチャカチャと鳴子の音が。顔を上げると、その鳥取の方が鳴子を振って応援してくれていました。本当にうれしく、表彰台からの最高の眺めを堪能しました。

大会後には、さらに驚くべきことがありました。栃木県の方が、16年前の北海道でのねんりんピックで撮影された都築先生の写真を、わざわざ私に届けてくださったのです。今年は先生の7回忌。「コーチが、ずっと見守ってくれゆうがやね」と思わず呟きました。

山を愛し、水を愛し、人を愛してここまで来られたこと。そして支えてくれた仲間と、温かく応援してくださる多くの方々に、心から感謝しています。都築先生、見ちゆうかえ—私はやったでえ。

大会キャラクターのミナモちゃんと  
金メダルを手に記念撮影。



中国・四国  
高知県

2025 GIFU  
NENRINPIC

## マラソン

3km  
(選手代表)

みょうじん よし ふさ  
明神 良房さん  
64歳  
●参加歴：2回目

## たくさんのおもてなしの心との出会い

ねんりんピックは2年前のえひめ大会に続いて2回目の参加でした。他県の選手との再会を楽しみに参加しました。

私は定年退職後、再雇用で会社勤務をしていましたが、体調を崩したことから退職し、もう一度陸上競技にチャレンジしたい、走れるうちにどこまでできるか頑張ってみたいと思い、陸上競技に再チャレンジすることとしました。

そして、ねんりんピックの高知県選考会に参加し、本大会を目指すことにしました。すると、ランニングフォームが悪いことに気づき、現在も改善に努めながら練習に励んでいます。高齢になっても陸上競技ができ、さらに進化しようと取り組んでいる自分のこれからが楽しみです。

今大会においては、「おもてなし」の行動に多数触れることができ、感動しました。バスで会場に着くと、スタッフさんの元気なあいさつがうれしく、また、ゴミ箱の位置を尋ねると「お預かりします」と受け取ってくれました。

マラソンコースは長良川沿いの平坦で直線が多く、今までに走ったことのない良いコースでした。また、ゴミが全くなくコースがきれいなことに感動しました。今回は入賞者8位までにメダルがあり、入賞者全員喜んでいました。

高知県チームは、6人全員がそれぞれのペースで、笑顔でゴールすることを目標にスタートしました。結果、私は60～69歳3km男子の部で逆

転優勝、その他にも高知県チームは優勝1名、入賞2名と大活躍でした。

全国から集まった選手の皆さんとランニングの話をしてながら親睦を深めることができ、高齢でもランニング仲間が多くいることをあらためて確認しました。ねんりんピックで全国の仲間たちと一緒に走れる喜びは、この大会でしか経験できません。

今後、ねんりんピックが多くの高齢者が目標とし参加できる大会でありますよう心から願っております。

私も微力ではありますが、高知県内のランニング仲間にねんりんピックの素晴らしさを伝えるとともに、高知県選考会から声掛けを行って多くの方が参加し、ねんりんピックを目標に頑張る選手が出てくるよう選考会を盛り上げていきたいと考えております。

今回も良い経験をさせていただきありがとうございました。



笑顔のゴールを約束し合った高知県チーム。(右から2番目)



## 将棋

広島市  
(選手代表)

かきもと まさゆき  
柿本 雅之さん

60歳

●参加歴：1回目

## ねんリンピック初参加で金メダルを獲得

岐阜羽鳥駅の改札を抜けると、高校生から大声援を受けた。開会式会場では中学生にエスコートしてもらい、将棋会場では昼食時に、栗きんとんなどの名産品を女子中学生が全員に配っていた。これがねんりんピックのおもてなしなのか。歓迎されるのは気分が良かった。

数年前からねんりんピック将棋交流大会がどういう大会なのか研究を始めた。まず3人で1チームの団体戦であること。予選は4チーム総当たりで1位のみ16チームの決勝トーナメントに進出できること。予選落ちした場合は個人戦にまわることがわかった。

仮に私が予選で3連勝しても、1試合でもチームが1勝2敗で負けると予選落ちとなるので、なかなか出場への踏ん切りがつかなかった。そこで、思い切って大学の恩師などへの年賀状に、今年で60歳になるのでねんりんピック将棋部門に参加する旨を書いた。こうなると出場しない訳にはいかなかった。

総合開会式の会場からは岐阜城が見えた。戦国ものを読むと度々出てくるお城だ。織田信長が見ていた風景をぜひとも見てみたくなった。昼食後からバスの時間まで2時間あまり。タクシーを捕まえるのに30分かかったり、10分おきのロープウェイが乗る手前で満席になったりしたが、なんとか岐阜城に到着。濃尾平野が360度見渡せて、信長気分が味わえた。1時間半でバス乗り場に帰還し、代表者会議に遅刻せずにすんだ。

さて、翌朝からいよいよ予選リーグ3試合だ。初戦は埼玉県。ここが最大の勝負どころと3人とも認識していた。私の対戦相手は、今年、

一般大会で決勝まで進んだとさり気なく強さをアピールするツワモノ。序盤は押されていたが徐々に挽回し、終盤は勝勢になったので横を見ると、すでに2人とも負けていた。恐れていたことが起こっていた。結局、チームは1勝2敗で敗戦。残り2戦は勝つも、2勝1敗で予選落ち。埼玉県が3連勝で予選突破し、決勝トーナメントでも全国3位の好成績を残した。

翌日は予選落ちしたので個人戦にまわる。全国的な強豪は皆、団体戦の決勝トーナメントのほうに行っていたので、割と楽に4連勝し、金メダルを獲得した。大会の合間には、20年振りに会う人や懐かしい人たちとの交流があり、貴重な時間が過ごせた。ホテルは夕食なしとしていたので毎晩、飛騨牛などの名産品を食べ歩いた。コロナ禍以降、他県に行くことがほとんどなかったので、4泊5日の岐阜の旅は久しぶりに刺激があり楽しむことができた。



個人戦の金メダルの賞状を笑顔で受け取った。